

イチゴ「あまおう」の普通促成栽培における 黒寒冷紗を用いた花芽分化促進技術

野菜栽培部

1 背景、目的

本県で育成したイチゴ品種「あまおう」は、普通ポット育苗すると「とよのか」よりも花芽分化期が遅いため年内の収量が少なくなります。このため、花芽分化の早進化により出荷を早くすることと年内収量の確保が課題となっています。

また、普通ポット育苗はイチゴの全作型の半分近くを占めており、生産者からは夜冷装置等を使用しない安価で簡易な花芽分化促進技術が求められています。

そこで、育苗後期の黒寒冷紗被覆によるイチゴ「あまおう」の花芽分化促進効果を明らかにしました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 定植前約1ヶ月間、黒寒冷紗を被覆すると露地に比べ4日程度花芽分化が早まり、60～70%と高い花芽分化率となります。また、黒寒冷紗を二重にして被覆すると花芽分化期は安定して早くなります。(図1、図2、一部データ略)
2. 「あまおう」に黒寒冷紗を被覆すると「とよのか」に比べて高い花芽分化促進効果がみられます。(図2)
3. 被覆処理終了時の苗質は、クラウン径はほぼ同等ですが、黒寒冷紗の遮光率が高くなるほど、葉柄は長くなります。(写真1)
4. クラウン付近の気温は、黒寒冷紗を被覆することにより低下します。遮光率が高くなるほど昇温抑制効果は高く、葉温も低くなります。(データ略)

3 主要なデータなど

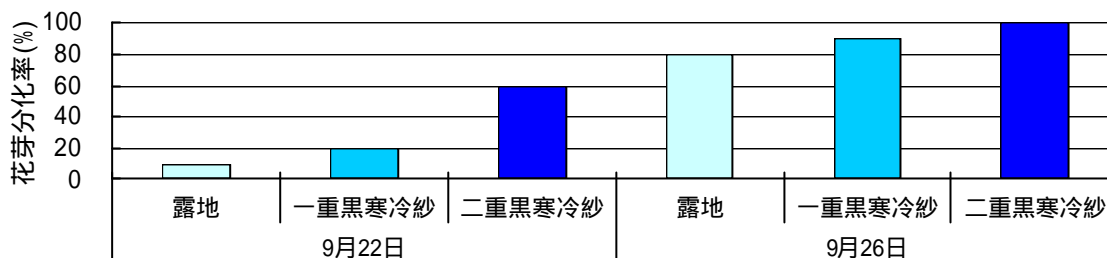


図1 黒寒冷紗被覆と花芽分化率の推移（品種：あまおう、平成15年度）

注) 1. 肥厚後期以降を花芽分化とした（図2も同じ）

2. 7月28日～8月26日の期間中窒素濃度 2me/L の液肥を底面吸水した

3. 遮光期間は、育苗期間6月26日～9月26日の後期（8月26日から約1ヶ月間）とした

4. 間口2m、奥行3m、高さ1.8mの小型ハウスで試験を実施した

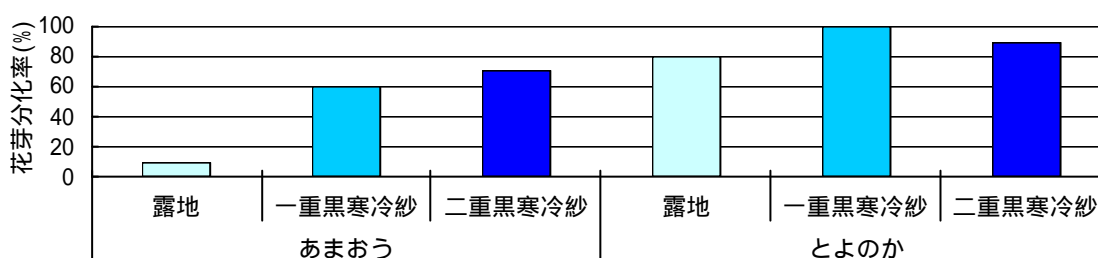


図2 品種及び黒寒冷紗被覆と花芽分化率(平成16年度)

注) 1. 調査は9月13日

2. 8月20日に最終追肥

3. 遮光期間は、育苗期間6月9日～9月19日の後期（8月20日から約1ヶ月間）とした

4. 間口6m、奥行4m、高さ2.5mのハウスで試験を実施した



写真1 黒寒冷紗被覆による苗質（品種：あまおう、平成16年度）